



～第60回日本栄養改善学会学術総会にて発表～

生きたビフィズス菌を腸に届ける有効性を確認

**独自のビフィズス菌含有腸溶性シームレスカプセルにより
おなかの調子が悪い大学生の便秘傾向が改善**

森下仁丹株式会社(本社:大阪府中央区/代表取締役社長:駒村純一)は、甲子園大学栄養学部(所在地:兵庫県宝塚市) 浅田雅宣教授と共同で、「大学生におけるおなかの調子についての調査」を行い、当社独自のビフィズス菌含有腸溶性カプセルによる便秘傾向改善作用を確認し、その研究成果について、「第60回日本栄養改善学会学術総会」(2013年9月12日(木)～14日(土)、会場:神戸国際会議場)で発表します。

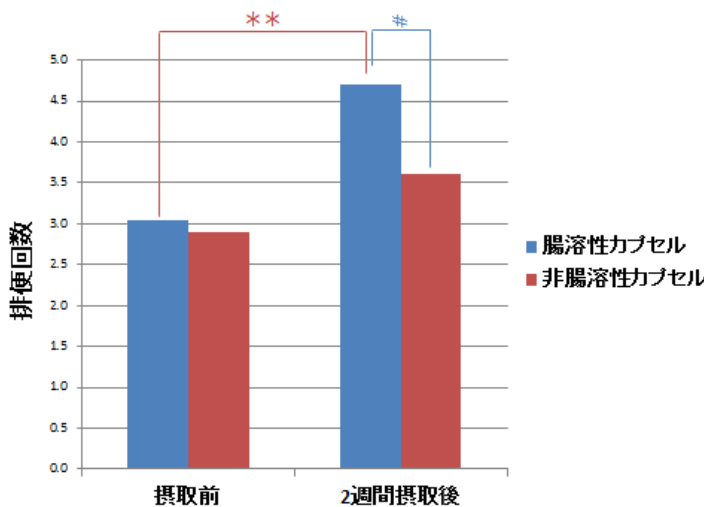
今回の調査では、事前アンケートで「おなかの調子が悪い」と答えた甲子園大学の学生を2グループに分け、生きたビフィズス菌をそれぞれ性質の異なるカプセルに包んで2週間摂取してもらい、排便回数、便の状態等を記録してもらいました。その結果、当社独自技術で皮膜に耐酸性を持たせたビフィズス菌含有腸溶性シームレスカプセルを摂取したグループと、胃で溶けるビフィズス菌含有ハードカプセルを摂取したグループでは、便秘傾向者において、腸溶性シームレスカプセル摂取グループの方が排便回数により有意な改善作用が確認されました。

また、腸溶性シームレスカプセル摂取グループにおいては、便やおならの臭い、おなかのハリや改善や、おならの回数の減少が確認され、生きたビフィズス菌を腸に届ける有効性が示されました。

当社では、長年培ってきたカプセル製剤技術を活かし、腸溶性皮膜を有するカプセルに、胃酸に弱いビフィズス菌を封入し、その効果について研究を続けております。今後も確かなエビデンスのもと、安心して安全な商品をご利用頂けるよう更なる安全性・信頼性の向上を図り、皆様の健康増進に寄与して参ります。

排便回数

※摂取前の排便回数が4回以下の被験者のみ



腸溶性カプセル群の初期の排便回数との比較: **P<0.01 (Steel)

腸溶性カプセル群と非腸溶性カプセル群の比較: #P<0.05 (Mann-Whitney)

◀ 1週間の排便回数が4回以下の便秘傾向被験者は、ビフィズス菌含有カプセルの摂取により、排便回数が有意に増加した。また、被験者のうち、ビフィズス菌含有腸溶性シームレスカプセル摂取グループの方が、ビフィズス菌含有ハードカプセル摂取グループより排便回数が有意に増加した。

【リリースについてのお問合せ先】

森下仁丹株式会社 広報宣伝部 担当:磯部・中島 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108
共同PR株式会社 第四業務局 担当:長尾・呉 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-1005



【発表の概要】

<発表演題> 大学生のおなかの調子アンケート調査と便秘傾向者におけるビフィズス菌摂取効果

<発表者> 浅田 雅宣(甲子園大学栄養部)、榎本 雅俊(甲子園大学総合教育研究機構)、
西田 典永、島本 康介(森下仁丹株研究開発本部)

<発表内容>

甲子園大学の学生 573 名を対象に、おなかの調子に関するアンケート調査を行った結果、50%がおなかの調子が悪いあるいは時々悪いと感じ、そのうちの 95%がおなかの調子を整えたいと感じていることがわかりました。

そこで、お腹の調子が悪く、摂取試験に同意した大学生 88 人を対象に、生きたビフィズス菌 *Bifidobacterium longum* JBL01 を包んだ胃で溶けない腸溶性カプセル(森下仁丹(株)製)と胃で溶ける非腸溶性カプセルを毎日(いずれも生菌数 12.5 億個)2 週間摂取し、排便回数、便の状態等を記録して頂きました。その結果、摂取前 1 週間の排便回数が 4 回以下の便秘傾向者において、生きたビフィズス菌を包んだ、生きて腸まで届く腸溶性カプセルの摂取により、排便回数が有意に増加しました。また非腸溶性カプセル摂取群との比較でも、腸溶性カプセル摂取群の方が、有意に増加することが明らかとなりました。また、便臭やおなかのハリなどに関するアンケート調査においても、便臭、お腹のハリ、吹き出物等において、腸溶性カプセル摂取群の方が、改善効果が高いことが示されました。

本調査により、お腹の調子が気になる大学生が多いことが明らかになり、腸溶性カプセル化ビフィズス菌製剤の摂取によりお腹や肌の調子の著しい改善効果が認められ、生きたままビフィズス菌を腸に届ける有効性が示されました。